

グローバル・ヘルスガバナンスの 現状と課題

国境を越える感染症に関しては、歴史的にみて国家間協力は比較的スムーズに進められてきた。協力した方がしない場合よりも多くの利益を得られるからだ。

他方、新型コロナ対応を巡っては、国家間協力よりも、対立や自国第一の動きが目立ってきた。それはなぜか？

この背景について、ウイルスの特徴、国際情勢、保健ガバナンスの構造的課題といった複数の視点で読みといていきたい。



講師 詫摩 佳代 氏

東京都立大学法学部教授

東京大学法学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修士課程終了、同博士課程単位取得退学。博士(学術)。専門は国際政治学、国際機構論。東京大学東洋文化研究所助教、首都大学東京法学政治学研究科准教授を経て2020年より現職。

著書に『国際政治のなかの国際保健事業』(ミネルヴァ書房、2014)、『人類と病—国際政治から見る感染症と健康格差』(中公新書、2020)、分担執筆に『新しい地政学』(東洋経済新報社、2020)、『グローバル保健ガバナンス』(ミネルヴァ書房、2020)、『新時代のグローバル・ガバナンス論』(ミネルヴァ書房、2021)など。

日時 2021年12月17日(金)14:00-15:30

場所：オンライン開催 (Zoom)

参加費：無料

参加登録： <https://bit.ly/3osfUEK>



※聴講申込用googleフォーム

※事前に上記googleフォームにて参加登録下さった方に、聴講用URLをお知らせ致します

URL： <http://www.intcul.tohoku.ac.jp/g2sd/jp/workshop/>

使用言語：日本語

主催：東北大学 大学院国際文化研究科

共催：東北大学 災害科学・安全学国際共同大学院プログラム

後援：MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社
MS&ADインターリスク総研株式会社

(お問合せ) 国際文化研究科国際政治経済論講座: ipe.gsics@gmail.com